

Y09c 天文普及におけるプラネタリウムの活用法

栗野諭美(岡山天文博物館)、一守辰也、岡崎直美、原田幸子、原田 浩、西山広太(以上 アストロクラブ)

ここ数年、天文普及としてのプラネタリウムの活用法の一例として、参加型プラネタリウムの実践が数多く聞かれるようになった。しかしながら、科学館・公開天文台を訪れる多くの一般の人たちにとって、未だプラネタリウムは「見に行く」ところで、自分が「参加する/体験する」ところという意識はほとんど持たれていないようである。とはいえ、プラネタリウムに興味を持っている一般の人たちの中には、プラネタリウム機器や投影方法、番組制作等に興味を持たれる人も実は少なくない。

岡山天文博物館は直径 10 m のドームにプラネタリウム機器を備えた、オーソドックスな施設である。当館では、このけして特殊な技術を必要としない本機器を用いて、番組を見るだけでなく、実際に機械に触れ、活用し、かつ自分たちのメッセージを表現する場、として一般の人たちに広く利用してもらうために、平成 15 年度よりプラネタリウム体験講座「アストロクラブ」の活動を進めてきた。

今回は、この「アストロクラブ」の活動報告をはじめ、そのほか行ってきた実践報告を交えながら、今後のプラネタリウムの活用法について提案したいと考えている。